

その技術がなければロケットは飛ばない！

中小企業の技術と

JAXAの宇宙開発

日本の中小企業には世界に誇れる技術がたくさんあります。人類のロマンでもある「宇宙開発」。「中小企業技術の宇宙開発への導入を積極的にアピールして、中小企業や地域社会活性化の起爆剤としたい！」大阪工業大学の学生たちが、熱い気持ちを込めてシンポジウムを企画しました。技術（知的財産）を適切に保護し流出を防ぐことは大変難しいことです。優れた技術やノウハウをもちながらも、知的財産の専門家が少なく、さまざまな壁が立ちはだかる中小企業の現状。

シンポジウムでは、技術移転、知的財産保護など、中小企業の技術を宇宙開発に活用する際に発生する知的財産問題に焦点をあて、「中小企業の技を宇宙開発へ」をテーマにディスカッションを繰り広げます。

公開シンポジウム

お申込不要
参加費無料

開催
日時

2013年 **10月27日** (日)
午後2時30分～4時15分

場所

大阪工業大学

大宮キャンパス1042教室(10号館4F)

同時
開催

パネル展示(常設)

「宇宙写真展」「あなたの知らないJAXAの知的財産」

プレ企画 午後2時～2時20分(シンポジウム会場にて開催)

学生プレゼンテーション「あなたの知らないJAXAの知的財産」

【主催】大阪工業大学 【協力】MOBIO(ものづくりビジネスセンター大阪)

背景画像提供: JAXA

その技術がなければロケットは飛ばない! 中小企業の技術とJAXAの宇宙開発

日本の中小企業には、あまり社会に知られていませんが世界に誇れる技術がたくさんあります。大阪はこのような中小企業が多く存在している都市です。宇宙開発を展開させる際に、この中小企業の技術を宇宙産業に活用する、あるいは既に宇宙産業に活用されている中小企業の技術を周知させることによって、中小企業の技術力の高さを社会に示し、地域社会の活性化の起爆剤とすることができるのではないのでしょうか。宇宙産業開発に参入することで中小企業における研究開発も促進されるだけでなく、ものづくり企業としてのモチベーションが高まるに違いありません。しかしながら、優れた技術やノウハウを保護し技術流出を防ぐためには適切な知的財産活動が必要となるのですが、一般的に中小企業には知的財産の専門家が少なく、知的財産活動の経験にも乏しいことが多くあります。そこで、技術移転や知的財産保護など、中小企業の技術を宇宙開発に活用する際に発生するさまざまな知的財産問題に焦点をあてつつ、中小企業の技を宇宙開発へ積極的に活用することについてディスカッションを展開していきます。

講演者



三保 和之(みほ かずゆき)氏

JAXA産業連携センター
成果活用促進グループ(グループ長)

JAXA(宇宙航空研究開発機構)で技術移転・知的財産を取り扱うエキスパート。1990年宇宙開発事業団(現JAXA)に入社し、ロケット部門の研究開発に従事する。その後、フランス国立宇宙研究センター、文部科学省勤務を経て、現在、JAXA産業連携センター 成果活用促進グループのグループ長を務める。



棚橋 秀行(たなはし ひでゆき)氏

棚橋電機株式会社(代表取締役社長)

宇宙研究開発に挑むとびきり元気な大阪の企業社長。1983年大阪工業大学電気工学科卒業。野里電気工業株式会社、松下電器産業株式会社生産技術本部(出向)を経て、1989年棚橋電機株式会社へ入社。2006年棚橋電機株式会社代表取締役社長に就任、現在に至る。宇宙開発協同組合SOHLA(旧東大阪宇宙開発協同組合)専務理事や公益財団法人日本宇宙少年団の監事を務める。



鮫島 正洋(さめじま まさひろ)氏

内田・鮫島法律事務所(弁理士・弁護士)

あの『下町ロケット』(池井戸潤著)のモデルとなった弁護士であり、知財戦略の専門家。1985年東京工業大学金属工学科卒業。藤倉電線株式会社(現株式会社フジクラ)、日本アイ・ビー・エム株式会社知的財産部を経て、2004年内田・鮫島法律事務所設立、現在に至る。中小企業の知財戦略関連の政府プロジェクトに多数関わり、2012年に知財功労賞を受賞した。

パネラーには講演者に加え、大阪工業大学人工衛星プロジェクト「PROITERES」の田原弘一教授も参加し、中小企業をますます元気にするため、未来の宇宙開発についてディスカッションを展開します。